

伝えたい 残したい

20世紀 のうしく

問 文化芸術課(中央生涯学習センター内) ☎871-2301

正源寺周辺

昭和20~30年頃撮影

牛久町 瀬戸氏所蔵



この写真は、昭和20~30年頃の正源寺周辺の様子を撮影したものです。当時は、道路もまだ舗装されておらず、家々は藁葺きと瓦葺きの屋根が軒を連ねており、水戸街道の宿場町であった牛久宿の面影をうかがうことができます。また写真中央では、大勢の消防団員が火



現在の様子

の見櫓を建てていますが、現在、火の見櫓は撤去され、牛久市消防団第1分団の詰所となっています。



明治・大正・昭和の

「昔のうしく」の写真を募集しています。

里山の樹木

問 都市計画課

☎内線2522

第4回

ヤマザクラ

散房状につく(果実)
城中町斜面林
平成23年6月1日撮影



牛久町八坂神社境内(全体)
平成19年4月8日撮影

バラ科サクラ属の落葉広葉樹で寿命が長く大木になります。樹皮は暗紫褐色で横に長い皮目があります。葉は互生(茎の1つの節に1枚ずつ方向をたがえてつくこと)、長楕円形で長さ8~12cm、縁に鋭いぎざぎざがあり、新芽は赤味をおびています。花は淡紅色、3~4月頃側枝に新

芽と同時に1~3の花が散房状(中央の茎より下側の花ほど花茎が長くなり花の位置がほぼ同列)に咲きます。花つきや花・若葉の色にはさまざまな個体変異が見られます。果実は写真のように球形、径10mmほどで、紫黒色に熟します。名前は山に生えるサクラの意味ですが、サクラの語源には諸説あり、定説はありません。※牛久の里山樹木ハンドブック27ページに掲載。本に関するお問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。
【資料提供】NPO法人うしく里山の会 樹木リサーチ(文章:平塚芳雄、写真:「樹冠」戸塚昌宏(果実)渡辺奈)

文芸さろん | 卯 |

お隣の猫ゴロニヤンと腹を出し
古里の縁側恋し春の日
凜として寒風に薫る梅の花
もう一度夫に合ひたし雛飾る
桜そうそしらぬ顔で我れを呼ぶ
姫辛夷コブシ咲く愛でる間もなし鶉啄み
子をまもる不傷身と人さそう
そそろ歩きのホウジロの母おは
五十年故人を偲びて集う人
ふきのとう咲く陽だまりの径みち



タカコ
ヒロシ
塚本さん
高階さん
小山さん
堀さん
木村さん
草葉

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など

【あて先】〒300-1292牛久市中央3-15-1

「広報うしく文芸さろん」係

FAX: 873-2512

E-mail: shimin@city.ushiku.ibaraki.jp

【記載事項】作品、氏名、電話番号、匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)

「牛久の巨樹」発売中 ※お求めは都市計画課まで(1,200円)